

中郷地区地域福祉活動計画

みんな元気
笑顔あふれる
なかんごう
～こども・未来・絆～



金御岳公園（雲海）

令和8年3月

《中郷地区地域福祉活動計画策定委員会の皆さん》



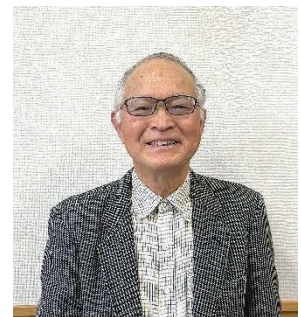
～これからの地域福祉を考える～

「なかngo」は市街地からも近く自然に恵まれた地区です。今後、高齢・少子化が進んでいく中で「なかngo」に住む人が笑顔にあふれ、ここに住んでよかったと感じられる地区にできればと思います。

「一人の笑顔はみんなの笑顔」と言われるように1人1人の笑顔が地域全体の笑顔に繋がっています。

今回、地域福祉活動計画策定委員22名でこれから5年の地域福祉のあり方について検討・協議を行い、「みんな元気 笑顔あふれる なかngo」～こども・未来・絆～のスローガンを作成しました。

子どもから高齢者まで地域全員が一緒になって「なかngo」を笑顔あふれる地区にしていきたいと思います。



中郷地区地域福祉活動計画策定委員会
委員長 上原 光行

策定委員会の進め方

第1回

地域の中で嬉しかったことや、変化のエピソードを出し合い発表。1つのエピソードを選ぶため投票を実施。素敵なエピソードがたくさんあり、同率1位が多かった。



第2回

1回目で出していただいたエピソードの全てを深掘り。各エピソードで共感する部分や大切なキーワードを出し合った。地域の特性やエピソードについて時間が足りないくらい盛り上がった。



第3回

1, 2回目で出たキーワードをもとに行動指針の作成。その行動指針をもとに、中郷地区でこれからの取り組みについて協議。10代の意見として中郷中学校の生徒とワークショップを実施し、その内容も委員の皆さんへ共有した。



第4回

これからの取り組みを実現するために、「組織体制」「財源」「事務局機能」「拠点」4つについて話し合いを行った。中郷中学校のワークショップで考えてもらった地域でしてみたい活動を実現していきたいとの意見もあった。



第5回

1～4回目の内容を振り返り中郷地区で大切にしたい価値観をもとにスローガンを決定。話し合い中も笑顔いっぱいの中郷だった。



地区社協のあゆみ①（設立年月日、活動の経緯など）

【地区社協のあゆみ】

昭和 57 年～	中郷地区福祉推進委員会として設立
平成 13 年～	中郷地区社会福祉協議会に改称 福祉なんでも相談などの事務局業務開始
平成 23 年～	子育てサロン・なかん GO!! 始動
平成 28 年～	見守りネットワーク構築訓練を公民館単位で実施 男性料理教室が活動開始
平成 29 年～	介護者のつどい（在宅介護者のつどい）開始
令和元年～	福祉施設との意見交換会を実施
令和 2 年～	生活・学習支援事業〈金御岳スクール〉開始 お元気じゃひか？なかんごう♪開始 広報誌（福祉便り）発行

【受賞歴】

平成30年10月	都城市社会福祉協議会会長表彰
令和元年 10 月	都城市長表彰
令和 3 年 9 月 22 日	みやざき社会貢献活動表彰

【主な事業】

・なんでも相談

毎週水曜日 10 時～15 時に中郷地区公民館にて開設。地域住民の相談を受け
る場でもあり、気軽に立ち寄ってお茶を飲み話ができる集いの場でもある。

・お元気じゃひか？なかんごう♪

梅北小学校と安久小学校及び中郷中学校の生徒から中郷地区の敬老会お祝い
対象者へ絵手紙を配布。子どもたちからの絵手紙を喜び、子どもたちへ返事を
送ってくださる方もいる。

・施設等との意見交換会

地区内の施設等との意見交換会を行い、地域での協働事業を推進する。

・料理教室

年に数回、中郷地区公民館で料理教室を実施している。健康に良い塩分が控
えめの料理などを食生活改善推進委員の協力を得ながら調理。

【組織・体制】

会長 1 名、副会長 3 名、事務局長 1 名、会計 1 名

【構成】

自治公民館長、民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター
高齢者クラブ、子育てサロン、地域包括支援センター

地区社協のあゆみ②（トピック）

トピック①

料理教室



平成 28 年度から男性料理教室が始まり、令和 7 年度より女性料理教室が始まった。今年度は、参加者の希望もあり、男女一緒の料理教室も実現した。普段料理をしない方が自炊をするきっかけづくりになっている。また、自分たちで作ったものを参加者と話をしながら食べており、参加者同士の交流も深めることができている。

トピック②

子育てサロン・なかん GO!!

平成 23 年から実施している子育てサロンなかん GO !!。2 カ月に 1 回、季節に合った行事を催している。どの行事も子どもから大人まで楽しむことができる。そして、中でも毎年人気なのは「もちつき」である。今年度もたくさんのご家族と中学生ボランティアが参加してくれた。この子育てサロンを通して、子育て支援だけでなく、未来を担うボランティアの育成にも力を入れている。



トピック③

学習支援事業〈金御岳スクール〉



令和 2 年から学習支援事業として金御岳スクールが始まり、夏休みに 2 回、冬休みに 1 回実施している。金御岳スクールは勉強だけでなく、料理教室や様々な体験も行っており、子どもたちの思い出にも残るような内容を計画している。小学生、中学生ボランティア、大人のスタッフが参加するため、世代間交流の場にもなっている。

創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～

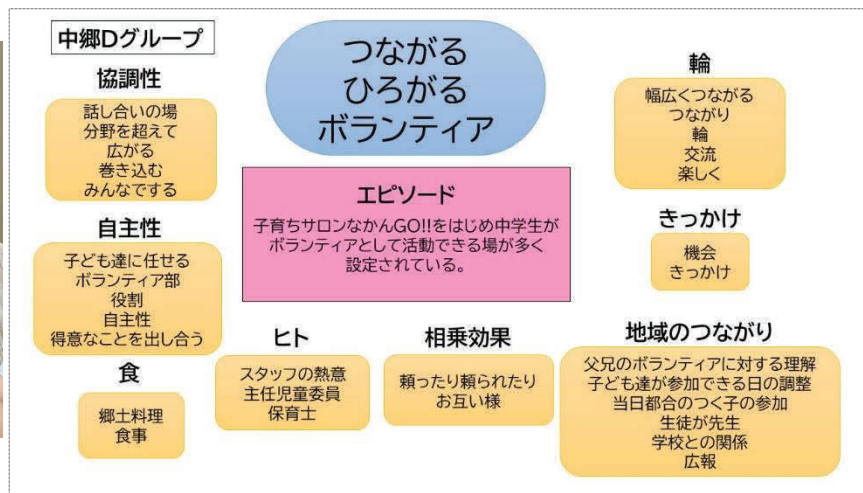
第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



◆第5次都城市地域福祉活動計画「〇〇〇地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

地区全体 スローガン	行動指針	活動・事業
<p>みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～子ども・未来・絆～</p>	<p>子どもと高齢者がふ れあい・交流を通し て、地域に親しみを 持てるようにしよう</p>	<p>お元気じゃひか？なかんごう♪ 小中学生から敬老会のお祝い対象者に絵手紙を配布（年1回）</p> <p>世代間交流事業 昔の遊び等の伝承活動を行っている</p>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

実現に向けて必要なこと

これから取り組むこと

【実施内容の再検討】

- ・高齢者運動会に子どもたちが参加できるプログラムを入れる（お元気じゃひか？なかんごう）
- ・各地区の高齢者へ小中学生が直接ハガキを手渡す（お元気じゃひか？なかんごう）
- ・高齢者が子どもにゲートボールを教える取り組み

【交流できる場の確保】

- ・交流する時間を確保するため、学校の総合
- ・学習の時間を活用
- ・交流する機会を増やすため、高齢者から学校に出向く

何が整えば実現できるか

【組織体制】

- ・子どもと高齢者が見守り、見守られる関係性作り
- ・芋煮会、大鍋の会、おしゃれマラソン、駅伝、マイペースマラソンなどの昔の行事を復活させる（世代間交流事業）

【財源】

- ・見守りに協力する自治公民館には地区社会福祉協議会から助成金を出し、活動してもらう（お元気じゃひか？なかんごう）

【事務局機能】

- ・学校や公民館長へ連絡し調整（お元気じゃひか？なかんごう）

【拠点】

- ・高齢者が学校へ出向く場合は学校を利用

目指す
地区社協像

※これ以降を参照

第5次都城市地域福祉活動計画の体系図

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

新「地区社協」創造

3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり ～ぼちぼちやっみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉のまちづくり

高 崎／支えあい未来につながる★きりり★高崎

都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ≡ 「最もすごいチェンジ」



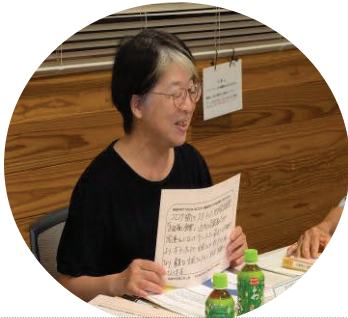
公民館や学校、地区の花壇に花の苗を植え付けしていただいた



中学生がボランティアとして活動できる場が多く設定されている。



児童とのふれあい、登校時、小学校内にてのあいさつ運動



コロナ渦でスタートした「おむすび食堂」近所の高齢者が常連に。中学生ボランティアも来るようになった。



以前関わった子どもたちが声をかけてくれる。また、入学後に保護者と一緒に来てくれ、保護者ともお付き合いができています。

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

○1人暮らしの方の安否確認を兼ねて、毎日夕方にお茶のみをしている。

○男前料理教室に参加した方から、家でも作ってみたいと写真が送られてきた。

○安久小の祭りで児童とPTAと練習等するうちに子どもたちとの会話も生まれ、挨拶もできるようになった。

～中郷中学校ワークショップ～

(目的) 10代の意見を取り入れるため

(内容) 「中郷のいいところ」・「やってみたい活動」

「中郷のいいところ」では、地域の人となかがいい・大人がやさしい・あいさつがいいなどたくさんのいいところを発見し、「やってみたい活動」では大運動会や中郷で映画を作るなどの意見が出た。中学生の意見を一つでも形にしていきたいと地域の方から前向きなお話もあった。



行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>つなぎ役、つなぎの場として地域のよりどころになるような場にしていこう</p>	<p>① <u>ふくしなんでも相談</u></p> <p>中郷地区公民館 毎週水曜日 10時～15時</p>	<p>【周知・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談日周知のために、行事やイベント時、または年間カレンダーと一緒にチラシを配布 ・回覧板を全戸配布 <p>【住民のニーズ把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館加入の有無に関係なく地域住民のニーズを把握するため、民生委員の定例会に参加する ・各自治公民館を回り、出張型の相談所を開設 <p>【相談の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回夜間の相談窓口を開設 ・電話相談の実施
<p>子どもと高齢者がふれあい・交流を通して、地域に親しみを持てるようにしよう</p>	<p>② <u>お元気じゃひか？なかんごう♪</u></p> <p>小中学生から敬老会のお祝い対象者に絵手紙を配布 (年1回)</p> <p>③ <u>世代間交流事業</u></p> <p>昔の遊び等の伝承活動を行っている</p>	<p>【実施内容の再検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者運動会に子どもたちが参加できるプログラムを入れる（お元気じゃひか？なかんごう） ・各地区の高齢者へ小中学生が直接ハガキを手渡す（お元気じゃひか？なかんごう） ・高齢者が子どもにゲートボールを教える取り組み <p>【交流できる場の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流する時間を確保するため、学校の総合学習の時間を活用 ・交流する機会を増やすため、高齢者から学校に出向く
<p>地域の大人や学生とふれあう時間を大切にし、つながり・地元愛を深めていこう</p>	<p>④ <u>学習支援事業</u></p> <p>夏休み等の宿題や料理教室、体験等を催す（年3回）</p>	<p>【実施方法や回数工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、子ども食堂を兼ねて学習支援の実施 ・社会福祉法人「こころ」とコラボし、学習支援の回数を増やす ・社会福祉法人「こころ」で実施している「おにぎり食堂」の前に勉強会を実施し、その後食事会 <p>【拠点の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブなど

笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと ①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターが交代で民生委員の定例会に参加し、ニーズキャッチの役割を担う 自治公民館長、民生委員がそれぞれの会議に参加し、地域の実情を共有・把握する <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシ制作費は地区社協の財源 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間の電話相談は地区社協の役員が対応 <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区公民館を利用し話し合い等を実施 	<p>①組織体制:「固定化」から「チーム戦」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする 地区社協担当者の増員 学校関係者の役員・理事参入 関係機関とつながりのある地域
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと高齢者が見守り、見守られる関係性作り 芋煮会、大鍋の会、おしゃれマラソン、駅伝、マイペースマラソンなど昔の行事を復活させる（世代間交流事業） <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> 見守りに協力する自治公民館には地区社協から助成金を出し、活動してもらう（お元気じゃひか？なかんごう） <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や自治公民館長へ連絡し調整（お元気じゃひか？なかんごう） <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が学校へ出向く場合は学校を利用 	<ul style="list-style-type: none"> 専用事務室の確保 有給職員の雇用 法人格の取得（NPO法人、一般社団法人等） 策定委員会のメンバーを構成メンバーにする 有償ボランティアの拡大 地元企業の参画 動きやすいポストづくり
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月に1回児童館や福祉施設で学習支援を兼ねた子ども食堂の実施 <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援への参加費 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に2回の短期型を実施し、徐々に月1～2回の常設型にしていく <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区公民館 マンガ倉庫を作れる場所を検討 確保した拠点の活用 	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>参加者の交流を通して、顔見知りやつながりを増やすことで、見守り体制を強化し、参加者の心身の健康や楽しみを守ろう</p>	<p>⑤ <u>男前・女性料理教室</u></p> <p>食生活改善推進委員の指導で調理し会食今年度から女性限定と男女一緒に料理教室開始</p> <p>⑥ <u>いたっみる会</u></p> <p>レクリエーション活動や世代間交流</p>	<p>【周知・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現参加者への声掛けだけではなく、チラシを作成し広く周知する ・館長会で話をし、周知をお願いする(男前・女性料理教室) ・自治公民館活動を広報誌で周知する(いたっみる会) <p>【参加対象者と方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者を独居の高齢者だけではなく、若い世代も対象にする(男前・女性料理教室) ・週末に親子や祖父母と孫を対象に実施(男前・女性料理教室) ・こじいの森の料理教室と一緒に実施(男前・女性料理教室) <p>【活動の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館同士で情報交換を行う(いたっみる会) ・複数の公民館で同時に活動を開催する(いたっみる会)
<p>みんなが楽しみ・交流できる場としての地域活性化の取り組みを若者の参加参画を得ながら工夫して継続していこう</p>	<p>⑦ <u>納涼まつり</u></p> <p>関係団体による出店やステージイベントなど(年1回)</p> <p>⑧ <u>ふれあい文化祭・福祉まつり</u></p> <p>保育所によるセレモニー、やっさ節コンテストなど(年1回)</p>	<p>【周知・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校へPRを行い、子育て世代の参加者を増やす ・お知らせ花火の代わりに経費を抑えたものを考える(納涼まつり) ・中郷地区の活動やイベントのチラシを配布し、活動のPR <p>【出し物の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加のきっかけづくりのため、中郷地区の学校へダンス等の出し物の依頼 ・業者と異なる食べ物の販売(納涼まつり) ・子どものブース設置(ふれあい文化祭・福祉まつり) ・無料の炊き出しや、ふるまいの復活(ふれあい文化祭・福祉まつり) <p>【移動手段】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動手段を確保 <p>【人材確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校へ声掛けし、ボランティアの確保 ・学校の行事と重ならない日程を設定する

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと</p> <p style="text-align: center;">①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館長や民生委員が周知を行う ・参加者の声を伝える ・3世代で見守り活動（男前・女性料理教室） ・地区社協で情報をまとめ、各公民館へ周知（いたっみろ会） <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同募金（男前・女性料理教室） ・料理教室への参加費（男前・女性料理教室） ・地区社協からの助成金を利用（いたっみろ会） <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、自治公民館長、食生活改善推進委員、行政、生活支援コーディネーターと協力・連携（男前・女性料理教室） ・壮年、青年、公民館長に協力をもらう（いたっみろ会） <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館や自治公民館を利用 	<p>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人サポーターの募集 ・協賛企業（スポンサー）の発掘 ・自主財源確保のためのツール開発 ・社協のファンを増やして財源確保 ・サロン等のイベント参加費 ・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛） ・人材を活かした収益事業（演奏、手品） ・物品販売 ・場所、物の貸し出し ・有償サービスの導入 ・忌明け寄付の活用
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員として中学生にも役割を担ってもらおう ・高齢者の移動手段を確保するため施設に協力してもらおう ・中学生に出店をしてもらう際に、地区社会福祉協議会の役員が支出、収入等について教え、お金について学ぶ機会を作る（納涼まつり） ・しめ縄づくりは中学生のボランティア部へ伝承（ふれあい文化祭・福祉まつり） ・中学生ボランティアに何をしたいかと詳細をきめてもらい、まちづくり協議会と中郷地区社会教育関係団体等連絡協議会の会議へ参加してもらおう <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上の利用 ・地区社会福祉協議会からの助成 ・しめ縄のわらの費用として地区社会福祉協議会から弁当を提供 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在しているものへの参加や、中学生とのワークショップ等でアイデアをもらう ・移動手段のニーズ把握や協力機関への声掛け <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎をする場合集合場所として自治公民館を利用 ・しめ縄づくりは体育館でブルーシートを敷いて実施 	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>団体との交流を通して、施設や地域住民との関係性を構築することで、ニーズを把握し地域を知ろう</p>	<p>⑨ <u>福祉施設等との意見交換会</u></p> <p>各施設と問題を共有し検討する (年1回)</p>	<p>【実施方法や参加者の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員による地域での相談事例を共有 ・先生たちだけではなく、子どもたちの参加 ・社会福祉法人「こころ」と協力し、地域とのワークショップを開催する (中学生×地域×施設) ・民生委員児童委員の定例会に施設を呼ぶ <p>【開催場所の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設で開催する <p>【知る機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設による地域活動を知る機会を作る
<p>声掛けや見守りを継続し、住民同士のつながりを作ることで、誰も取り残されない地域にしよう</p>	<p>⑩ <u>友愛訪問活動</u></p> <p>高齢者の安否確認のために実施</p> <p>⑪ <u>見守りネットワーク構築訓練</u></p> <p>各自治公民館で災害時等の訓練を行っている</p>	<p>【対象者の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館未加入世帯も対象にする(友愛訪問活動) <p>【方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、地域全体の個人宅パトロールを行う(友愛訪問活動) ・子どもたちと一緒に訪問(友愛訪問活動) <p>【参加しやすい工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を増やすために、環境美化の日を実施(見守りネットワーク構築訓練) ・名称変更(見守りネットワーク構築訓練) <p>【実施しやすい工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように実施しているか知ってもらうために、実施公民館の見学会を行う(見守りネットワーク構築訓練) ・実施方法に関するワークフローを作成(見守りネットワーク構築訓練) ・地区社協で実施事例の資料作成(見守りネットワーク構築訓練)

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと</p> <p style="text-align: center;">①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設を知るため、ボランティアも巻き込み施設見学・体験型イベント <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区社会福祉協議会の財源 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と施設を繋げる なんでも相談へ繋げる <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設を利用させてもらう 	<p>③事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局員の配置 相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施） 週5日開設 地区社協にボランティアコーディネーターの配置 地区担当2人体制 ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化） いろいろな事業で企業とコラボ
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館長と民生委員と一緒に訪問を行う（友愛訪問活動） どこに頼んだら何ができるのかの一覧を作成し、地区公民館で情報を持つ（見守りネットワーク構築訓練） 中学生を巻き込んだ防災訓練を実施（見守りネットワーク構築訓練） <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1回の地区社会福祉協議会からの助成金（見守りネットワーク構築訓練） 自治公民館の予算に入れる（見守りネットワーク構築訓練） <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団、地域の高齢者、自治公民館長、行政、社会福祉協議会と連絡調整を行う（見守りネットワーク構築訓練） <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自治公民館を利用 	<p>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 専用机を地区公民館内に配置する 子どもの居場所の開設 空き家・空き教室を活用した居場所づくり 1地区に複数（2つ以上）の拠点化 小学校区でのミニサテライト なんでも相談室を雑談室に

地区の風景



興玉神社の風景

策定委員名簿 委員長 上原 光行 副委員長 井ノ上 博彦

No.	氏名	所 属
1	上原 光行	益貫自治公民館
2	鬼束 巖	中郷地区社会福祉協議会
3	鬼束 利男	中郷地区社会福祉協議会
4	高丸 幹雄	中郷地区社会福祉協議会
5	時任 豊	中郷地区社会福祉協議会
6	井ノ上 博彦	中郷地区社会福祉協議会
7	永山 かゆみ	中郷地区社会福祉協議会
8	村田 利森	民生委員児童委員
9	栢 則昭	中郷商工会
10	吉川 幸子	ボランティア連絡会
11	東 伸一	ボランティア連絡会
12	和田 和子	生活支援コーディネーター
13	長友 京子	生活支援コーディネーター
14	堀内 正孝	正応寺自治公民館
15	川崎 安彦	藤田自治公民館
16	岡崎 亮	姫城・中郷地区地域包括支援センター
17	岩切 順一	壮青年連協
18	嶋木 勝子	高齢者クラブ
19	池崎 ナオミ	生活援助員
20	蓑部 千鳥	社会福祉法人こころ
21	中元 智恵	NPO 法人こじいの森・こどもの時間
22	西村 清美	中郷中学校